

各 位

2025年10月8日

会社名 河 西 工 業 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 社長役員 古川 幸二
(コード：7256 東証スタンダード)
問合せ先 取締役 専務役員 小川 耕一
(TEL：0467-75-1125)

財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備に関するお知らせ

当社は、金融商品取引法第24条の4の4第1項に基づき、本日、関東財務局に提出した2025年3月期の内部統制報告書において、開示すべき重要な不備があり、財務報告に係る内部統制は有効でない旨を記載いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 開示すべき重要な不備の内容

当社は、2023年3月期、及び2024年3月期において財務報告に係る内部統制に開示すべき重要な不備があるとして開示を行っております。これは、当社の連結子会社であるKASAI MEXICANA S.A. DE C. V. (以下「KMEX」)や当社において開示すべき重要な不備を認識したものであり、これらについて2024年3月期の内部統制報告書に記載した各再発防止策を実施してまいりましたが、下記の通り、一部の開示すべき重要な不備が当連結会計年度においても是正されていない状況であること、また、2025年3月期についても新たな財務報告に係る内部統制に開示すべき重要な不備を識別していることから、当連結会計年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効ではないと判断いたしました。

<2024年3月期に識別された開示すべき重要な不備>

当社は、2024年3月期において、財務報告に係る内部統制に開示すべき重要な不備があるとして開示を行っております。当該不備の是正状況は、当連結会計年度末においても引き続き改善中となっております。

<2025年3月期に識別された開示すべき重要な不備>

2025年3月期において、過年度に起因する新たな誤謬がKMEXにおいて発見されました。この誤謬は買掛金の勘定科目の照合作業を実施するなかで発見され、調査の結果、過年度に遡り2023年3月期より買掛金残高が誤ったまま四半期毎の決算を行っていたことが判明いたしました。(以下、「買掛金の計上誤り」という。)これに伴い、KMEX及びKMEX以外での過年度決算における他の誤謬も含めた2025年3月期以前の各四半期の連結財務諸表への影響金額や、当社における2024年3月期以前の有価証券報告書への記載内容を算定・検証のうえ、過年度決算や過年度の有価証券報告書の訂正作業等を行うことが必要となりました。

これらを踏まえ、当社は、2023年3月期及び2024年3月期の有価証券報告書並びに内部統制報告書、また2023年3月期及び2024年3月期の各四半期報告書、更に2025年3月期の半期報告書についての訂正報告書を提出いたしました。2025年3月期末において識別している開示すべき重要な不備の一覧は以下の通りです。

会社	区分	不備の項目	不備の対象年度		
			2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期
当社	全社的な内部統制	KMEXの決算財務報告への不十分な関与に関する不備	●	○	○
		財務報告に関するリスクマネジメントに関する不備	◎	●	○
	決算財務報告プロセス	マニュアル、チェックリストの整備及び運用に関する不備	◎	●	○
		経理担当者への教育不足	◎	●	○
KMEX	IT全般統制	KMEXの新ERPシステム導入時に関する不備	◎	◎	●
	業務プロセス	購買プロセスにおける残高調整に関する不備	◎	◎	●
		購買プロセスにおける債務計上に関する不備	◎	◎	●
	決算財務報告プロセス	マニュアル、チェックリストの整備及び運用に関する不備	●	○	○
		経理担当者への教育不足	●	○	○
		機能通貨の換算プロセスに係る内部統制の不備	◎	●	○

(注) ●：不備を識別した年度
○：不備が未改善の年度
◎：過年度に遡って不備を識別した年度

<当社において識別された開示すべき重要な不備>

■ 全社的な内部統制

(KMEXの決算財務報告への不十分な関与に関する不備)

▶ 不備の概要と原因

2023年3月期及び2024年3月期において、当社がKMEXの決算・財務報告プロセスに関するモニタリング等に十分に関与できていないことを開示すべき重要な不備として識別し、再発防止策に取り組んでまいりました。

しかしながら、KMEXの現地のスタッフに対する決算財務報告に関する指導を行うなどの子会社管理を適切に出来る体制が不十分でした。さらに、KMEXについては、当社からのサポートが必要な状況であったにもかかわらず、現地に経理責任者を派遣して決算財務報告のコントロールを実施することが出来ていないなど、当社による現地の決算財務報告のコントロールが十分でないことから、前連結会計年度に開示すべき重要な不備として認識された不備が継続しており、当連結会計年度においても是正は完了していないと判断しました。

▶ 不備の内容

- ・当社における子会社管理に関する職務を遂行できる体制が不足していること
- ・決算財務報告プロセスに関するモニタリングが十分に実施できていなかったこと

(財務報告に関するリスクマネジメントに関する不備)

▶ 不備の概要と原因

2024年3月期において、KMEXにおける米国会計基準に従ったメキシコペソ建て決算数値の機能通貨であるドルへの換算が誤っていること（以下、機能通貨の換算誤り）が判明しました。これについて、開示すべき重要な不備として識別し、再発防止策に取り組んでまいりました。

そのような中、2025年3月期にKMEXにおいて買掛金の計上誤りが発見されました。当社はこの問題のエスカレーションを受けたのち、当該誤謬に対する原因調査のためのKMEXにおける体制が脆弱であると判断し、当社より人材を派遣し、関与を開始しました。しかしながら、問題の把握、調査の方針の立案、調査結果の分析及び取りまとめ作業を実施するにあたり、これらをマネジメントできるリソースが不足していたことから、原因の追及と修正事項の特定までに時間を要し、訂正報告書及び有価証券報告書の提出が遅延する結果となりました。そのため、当連結会計年度においても是正は完了していないと判断しました。また、こうした問題のエスカレーションについても必ずしも報告すべきリスク内容や報告先が明確になっていないことを認識しました。

▶ 不備の内容

- ・当社主導による重要な誤謬に対応する体制構築が不十分であったこと
- ・財務報告に関するリスク及び問題の全体把握並びに対応方針を取りまとめ、マネジメントできるリソースが不足していること

■ 決算財務報告プロセスに係る内部統制

(マニュアル、チェックリストの整備及び運用に関する不備)

(経理担当者への教育不足)

▶不備の概要と原因

2024年3月期において、当社の決算・財務報告プロセスの不備に起因して訂正報告書を提出していることから、開示すべき重要な不備を識別し、再発防止策に取り組んでまいりました。

しかしながら、当連結会計年度の決算財務報告においても新たな誤謬が発見されました。当社の経理機能の体制としてもリソースを十分に確保出来ていない状況にあります。

このため、2024年3月期に識別した以下の不備については是正が十分とは言えないと判断しました。

▶不備の内容

- ・連結決算を取りまとめる立場として子会社から適切に情報を収集する仕組みが整備できていないこと
- ・会計基準に対応したマニュアルやチェックリスト等が十分に整備できていないこと
- ・担当者の実施した内容を上長が確認する体制または再確認を行う人員体制が十分ではなかったこと
- ・経理業務に関する習熟・教育が十分ではないこと
- ・会計基準の理解不足及び環境や状況の変化に伴う会計処理の見直しや検討が十分でないこと

<KMEXにおいて識別された開示すべき重要な不備>

■ IT全般統制

(KMEXの新ERPシステム導入時に関する不備)

▶不備の概要と原因

KMEXにおける買掛金の計上誤りは2023年3月期(2022年初め)に新たに導入したERPシステムに起因して発生しました。新システムには、買掛金の内訳残高を管理する補助元帳のレポート機能において、特定時点の残高を確認する機能が備わっていないにもかかわらず、それを補う機能を追加開発していませんでした。また、新システムの開発においてはフィット&ギャップ分析のフェーズが不足していたなどの課題がありました。このように、新システム導入後は期末残高を手作業で調整し、入力する必要があるなど、機能不足が買掛金の誤謬を生む要因の一つとなっていました。

▶不備の内容

- ・新システムの導入準備にあたり、必要とされる機能が備わっているかについての事前の検証、確認がなされていなかったこと
- ・必要な機能が備わっていないことが判明したことから、手作業による期末残高の確定作業を実施することとし、誤謬が発生する可能性が高い状況を改善するための機能開発を含むIT投資計画が適切に検討できていなかったこと

■ 業務プロセスに係る内部統制

(購買プロセスにおける残高調整に係る不備)

▶不備の概要と原因

新システムでは買掛金の残高把握に関して、特定時点の残高を表示する機能が備わっていないにも関わらずそれを補う機能を追加開発していなかったことから、手作業による修正が必要な状況となっていました。このため経理部門において、月次で対応を行っていましたが、買掛金担当マネージャーの交代等のタイミングで当該業務が適切に引き継がれず、一時的に外部ベンダーを利用した残高調整を実施しました。その際に外部ベンダーによる作業結果データの内容について十分な理解や検証を行わなかったため、誤った作業結果データ数値に合わせて総勘定元帳の数値を調整した結果、買掛金残高に誤謬が識別されました。

▶不備の内容

- ・決算における期末残高確定のための調整プロセスを理解し、運用する体制が構築されていなかったこと
- ・委託業者が実施した作業結果に対する適切な検証や承認の統制が整備できていなかったこと

(購買プロセスにおける債務計上に関する不備)

▶不備の概要と原因

買掛金残高調整の調査の過程において、新システム導入後に整備された発注した購入品の受領から債務計上までのプロセスにおける内部統制の不備が2点発見されました。以下の理由から、買掛債務残高が正しく認識されていない状態となっていました。

(1) 物品受入データの二重計上

購入品の請求書受領時の三点照合処理(発注書、納品書、請求書の突合せ)にあたり、納入時に請求書が届かない場合は、物品受入れを先行する例外処理を実施し、三点照合を請求書が到着後に遅滞なく実施するプロセスとなっています。

しかしながら、納入時に請求書が届かない場合、請求書に発注Noの記載がないことから、納入時の物品受入

データと請求書の紐付けがうまくできない状態となっていました。三点照合処理が実施できない場合には支払いができず、支払が滞ると仕入先の与信管理により新たな発注ができなくなる可能性があります。このような状態を避けるために、請求書に紐付けられるデータを作成するために追加で発注登録及び受入処理を行い、三点照合処理を実行し支払処理を実施しました。その結果、受入データの重複を起し、債務が二重に計上された状態となっていました。

(2) 債務データの削除処理

長期間支払われていない債務については、本来は支払いが遅延している残高及び原因を把握して処理をするプロセスとなっていることから、一定の期間を超過しても請求書と紐付かない受入データについては誤計上であるとの判断のもと、過剰な債務として四半期末に削除していました。しかしながら、詳細な原因分析をすることなく、受入の実態を伴う受入データなのか否かを考慮せずに削除したことから、債務データが過剰に削除される結果となり、逆に債務過少となる状態を生む事となりました。

▶不備の内容

- ・納入時に請求書が届かない場合に在庫受入をする例外処理について、受入データと請求書の消込処理が行われているかを確認する手順が適切に整備されていなかったこと
- ・長期間支払遅延している仕入債務について、支払遅延が生じている理由及び原因を特定して適切な会計処理をするプロセスが構築及び運用されていなかったこと

■ 決算財務報告プロセスに係る内部統制

(マニュアル、チェックリストの整備及び運用に関する不備)

(経理担当者への教育不足)

▶不備の概要と原因

2024年3月期においても、KMEXの決算・財務報告プロセスの不備に起因して訂正報告書を提出していることから開示すべき重要な不備として識別し、再発防止策に取り組んでまいりました。

当連結会計年度の決算財務報告においても過年度で発生した誤謬の再発及び新たな誤謬が発見されています。KMEXの経理機能の体制としてもリソースを十分に確保出来ていない状況にあります。

このため、2024年3月期に識別した以下の不備については是正が十分とは言えないと判断しました。

▶不備の内容

- ・マニュアルやチェックリスト等の整備が網羅的でなかったこと
- ・担当者の実施した内容を上長が確認する体制またはダブルチェックを行う人員体制が十分ではなかったこと
- ・経理業務に関する習熟・教育が十分ではなかったこと
- ・会計基準の理解不足及び環境や状況の変化に伴う会計処理の見直しや検討が十分でないこと

(機能通貨の換算プロセスに係る不備)

▶不備の概要と原因

2024年3月期において、機能通貨の換算の会計処理から誤謬が発生したことに伴い、KMEXにおける機能通貨の換算プロセスについて開示すべき重要な不備を識別し、再発防止策に取り組んでまいりました。

KMEXを重要な事業拠点と位置づけ、機能通貨の換算プロセスを個別プロセスとして評価対象を見直し、業務プロセスの整備の改善に取り組んできましたが、2025年3月期の監査において外部専門家に業務委託して算定された機能通貨換算に関連して誤謬を識別したため、不備の是正が十分とは言えないと判断しました。

▶不備の内容

- ・KMEXにて外部専門家に委託している作業内容の結果を適切に確認できず、誤りを発見できなかったこと

これらの内部統制の不備は、当社の財務報告に重要な影響を及ぼす可能性が高いことから、開示すべき重要な不備に該当すると判断いたしました。

2. 事業年度末日までには是正できなかった理由

上記については、2023年3月期、2024年3月期及び2025年3月期に識別され、2025年3月期の事業年度の末日において是正することができていない不備となります。2023年3月期の不備はKMEXにおける新会計システム導入に関する決算数値の誤謬、2024年3月期の不備はKMEXに関する機能通貨に関する誤謬、2025年3月期はKMEXにおける買掛金計上に関する誤謬であり、その都度不備を網羅的に識別し、当該不備に対応する再発防止策に基づく是正に真摯に取り組んでまいりました。いずれもKMEXに関連する誤謬であるものの誤謬の領域が異なるため、結果的に再発防止策の対象業務以外の領域から事後的に追加の不備を識別することとなりました。なお、上記の開示すべき重要な不備に起因する必要な修正は、財務諸表及び連結財務諸表に適正に反映しております。

3. 開示すべき重要な不備の是正方針

当社は、財務報告に係る内部統制の重要性を十分認識しております。2023年3月期、2024年3月期及び2025年3月期の3期連続での開示すべき重要な不備の識別・開示となっていることについて、そうした不備を生む主な原因は以下に記載するような点にあります。

- 過年度の内部統制の不備への改善活動は一定程度実行されていたものの、財務報告に係るリスクに対し、当社のマネジメントによる子会社管理への関与やモニタリングが十分ではなかったことから、改善活動を確実に完了させるための体制構築が不足していたこと
- 当社及びKMEXの双方において、特に決算業務全体のプロジェクトマネジメントを遂行するリソースの配置や、会計基準を理解し、経理業務に精通したリソースが不足していることから、決算財務報告プロセスの体制が脆弱であること

当社といたしましては、こうした状況を認識し、個々の不備に対して再発防止策を設定・実行し適切な内部統制の整備・運用を図っていくために、当社マネジメントによる子会社管理の適切なモニタリング及びリソース・人材の確保・充当が重要な課題であると認識して改善に取り組んでまいります。具体的には以下の通りです。

(1) 当社

(KMEXの決算財務報告への不十分な関与に関する不備)

- 2023年3月期、2024年3月期及び2025年3月期の3期連続で、当社としてのKMEXの決算財務報告の体制や仕組みの状況の把握や対応の不備に起因する開示すべき重要な不備の識別が継続していることを鑑み、改めて、当社として、KMEXの会計処理方針や手順適用の実態を把握確認し、必要な是正を実施していきます。このためKMEXの経理部門と当社の経理部門との会議の頻度を増やし、書面による報告だけでなく、オンライン会議も活用してKMEX経理の実態及び是正状況を把握することで、当社が改善活動に直接的に関与する体制を構築し、対応します。さらに、当社経理部門から現地駐在員を派遣し、KMEXの各種業務プロセスの改善を推進させるとともに上記のKMEXの経理部門と本社の経理部門間の橋渡し役として機能させます。

(財務報告に関するリスクマネジメントに関する不備)

- 当社は、発生した問題に関するエスカレーションルールについて、報告すべきリスクを類型化し、報告先を明確化するなど整理改善し、改めて社内へ周知を行うこととします。また、当社内および海外拠点内で発生した財務報告に係る課題に対処できるリソースを確保するとともに、外部専門家も活用しながら、財務報告に関する課題を解決し、管理する人材教育を実施することを通して適切な体制の構築及びリソース配備を進めてまいります。

(マニュアル、チェックリストの整備及び運用に関する不備)

(経理担当者への教育不足)

- 会計基準に対応したマニュアルやチェックリスト等の整備は進めてまいりましたが、担当者への教育徹底や、担当者の実施した内容を上長が確認する体制またはダブルチェックを行う人員体制が十分ではなかったことを踏まえ、教育の実施を含めて適切なリソースの確保及び体制の構築を進めてまいります。

(2) KMEX

(KMEXの新ERPシステム導入時に関する不備)

- 新システムに起因した買掛金の誤謬は、買掛金管理に必要なレポートや機能がシステムに実装されていないことから生じていることを踏まえ、これらのレポート機能の開発を進めます。この取り組みは、当社からERPシステム開発に知見のあるリソースを派遣して活動をリードさせると共に、KMEXの現地メンバーを巻き込んだ活動とします。

(購買プロセスにおける残高調整に係る不備)

- 外部ベンダーへの委託業務の統制の不備に対しては、外部専門家に委託している作業内容を理解し、委託者として作業結果を検証したうえで、会計処理に用いる統制の仕組みを整備いたします。また、期末残高を確定するための調整プロセスを正確に理解し、調整プロセスの合理性を検証したうえで、決算時に調整プロセスが適切に実行されているか検証したうえで、承認を実施する運用を実施いたします。

(購買プロセスにおける債務計上に関する不備)

- 取引先からの請求書と紐付けができていない全ての受入れデータを調査し、適切な債務計上となっているかどうかを確認する統制を導入いたします。上記に加えて、取引先より買掛金の残高確認書を四半期毎に

取得し、買掛金の残高認識の誤りを無くす取組みを実施いたします。また、納入時に請求書が届かない場合であっても、請求書到着時に紐付けが容易にできるよう、取引先の請求書に発注Noなど記載してもらう取組みも同時並行にて実施します。また、注文書発行から支払いまでの各ステータスを可視化できる仕組みを導入していきます。

(マニュアル、チェックリストの整備及び運用に関する不備)

(経理担当者への教育不足)

- ・ 2025年3月期において上記の不備について一定の改善を進めてきたものの、誤謬の発生が継続している状況を鑑み、改めて、KMEXにおける決算財務報告に関する基本的な業務プロセス全般に関する業務実態の棚卸を行ない、必要な是正を進めます。この取組みは、上述した当社としてのKMEXの決算財務報告の体制や仕組みの状況の把握や改善に係る取組みと合わせて進めていきます。

(機能通貨の換算プロセスに係る不備)

- ・ 改めて外部専門家に委託している作業内容の結果を、今回の監査で発見された誤りを含めて、KMEX内部にてチェックする内容を改善し、その運用を徹底してまいります。

4. 連結財務諸表及び財務諸表に与える影響

上記の開示すべき重要な不備に起因する必要な修正は、財務諸表及び連結財務諸表に適正に反映しており、当事業年度の連結財務諸表及び財務諸表に与える重要な影響はありません。

5. 連結財務諸表及び財務諸表の監査報告における監査意見

無限定適正意見であります。

以上